

引用文献

- 秋山千枝子. (2020). 育てにくさを感じたときに対処できる親の割合. 小児内科. 52(5), 666-669.
- ベネッセ教育総合研究所.(2011).<https://berd.benesse.jp/jisedai/research/detail.php?id=3316>
- 江口晶子, 荒木田美香子. (2019). 発達障害の特性をもつ子どもの親に対する熟練保健師による支援過程と支援技術：1歳6ヶ月時健診後の継続的支援の導入が困難な状況に焦点をあてて. 家族看護学研究, 25(1), 41-54.
- Fry, S. T., & Johnstone, M.-J. (2008/2010).片田範子, 山本あいこ (訳).看護実践の倫理第3版倫理的意思決定のためのガイド.日本看護協会出版会.
- 藤井智子, 杉山さちよ, 北村久美子. (2011). 学士課程卒業後1年目保健師の語らいからみえた活動の実態. 旭川医科大学研究フォーラム 12,34-41.
- 原田正文. (2004). いま、本当に必要な育児支援とは何か? :「大阪レポート」から23年目の調査が描くもの第2回. 保健師ジャーナル, 60(2), 178.
- 印南一路. (1997). すぐれた意思決定：判断と選択の心理学 (初版).中央公論.
- 笠井真紀, 河原加代子. (2008). 育児支援に関する研究の文献レビュー：保健師による育児支援における現状と課題. 日本地域看護学会誌 10(2), 14-19.
- 川崎優子. (2017). 看護者が行う意思決定支援の技法30：患者の真のニーズ・価値観を引き出す関わり (初版). 医学書院.
- 木下康仁. (2020). 定本M-GTA実践の理論化をめざす質的研究方法論 (初版).医学書院.
- 厚生労働省. (2010). 看護教育の内容と方法に関する検討会第一次報告書.
<https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r9852000001316y-att/2r985200000131al.pdf>
- 厚生労働省.(2014). 「健やか親子21(第2次)」について 検討会報告書.
<http://sukoyaka21.jp/pdf/dai5-4.pdf>
- 厚生労働省.(2017). 子育て世代包括支援センター業務ガイドライン.
<https://www.mhlw.go.jp/file/04-Houdouhappyou-11908000-Koyoukintoujidoukateikyoku-Boshihokenka/senta-gaidorain.pdf>
- 厚生労働省.(2020a). 令和元年(2019)人口動態統計(確定数)の概況.
<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/kakutei19/index.html>
- 厚生労働省.(2020b). 2019年国民生活基礎調査の概況.
<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/k-tyosa/k-tyosa19/index.html>

- 近藤良樹.(2007).「信じる」ことの認識論的二重構造.近藤良樹, 信用・信頼・信念 (論文集).
広島大学ブ 学術情報リポジトリオリジナル論文集. <https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00020346>
- 黒川恵子, 入江安子. (2017). 特定妊婦に対する保健師の支援プロセス：妊娠から子育てへの継続したかかわり. 日本看護科学会誌, 37, 114-122.
- 宮坂道夫. (2020). 対話と承認のケア—ナラティブが生み出す世界. 医学書院
- 宮川公男. (2005). 意思決定論 基礎とアプローチ (第1版). 中央経済社.
- 松村明(編). (2019). 大辞林(第4版). 三省堂.
- Miller, W. R.(2013/2019).原井宏明(監訳).動機付け面接 (第3版) .星和出版.
- 宮澤早織, 佐藤紀子, 宮崎美砂子. (2014). 飲酒問題を抱えながら乳幼児を育てる女性とその家族に対する行政保健師の支援方法の特徴. 千葉県看護学会誌, 20(1), 21-29.
- 中原洋子, 上野昌江, 大川聡子. (2016). 支援が必要な母親への妊娠中からの保健師の支援：妊娠届出時の保健師の判断に焦点を当てて. 日本地域看護学会誌, 19(3), 70-78.
- 中島一.(2009).意思決定入門 (第2版) .東京：日本経済新聞出版社.
- 中山和弘. (2012). 第1章 医療における意思決定支援とは何か. 中山和弘, 岩本貴(編), 患者中心の意思決定支援—納得して決めるためのケア (初版., pp. 11-40). 中央法規出版.
- 中山健夫. (2017).SDM 入門・総論.中山健夫(編) ,これから始める！シェアード・ディシジョンメイキング：新しい医療のコミュニケーション(初版)(pp.1-29).日本医事新報社.
- O'Connor, Stacey, Jacobsen. Ottawa Hospital Research Institute & University of Ottawa, Canada. (2015/2017).有森直子, 大坂和可子, 青木裕美(訳). オタワ意思決定支援ガイド(個人用). https://decisionaid.ohri.ca/docs/das/OPDG_Japanese.pdf
- 奥山則子. (2007) .保健師の保健指導は変化してきているのか?.保健師ジャーナル, 63 (6) ,481-485.
- 大木幸子, 桑原ゆみ, 下山田鮎美, 鈴木美和, 滝澤寛子, 平野美千代, … 荒木田美香子. (2019).親子保健活動における公衆衛生看護技術の体系化(第2報). 保健師教育, (1), 21-34
- 佐伯和子, 平野かよ子, 宮崎美砂子, 宇座美代子, 和泉比佐子, 河原田まり子, 関美雪. (2008).保健師指導者育成プログラムの開発. 佐伯和子(主任研究者), 保健師指導者育成プログラムの開発: 平成17～19年度総合研究報告書: 厚生労働科学研究費補助

- 金地域危機管理研究事業(H17-健康-一般-013), 1-9.
- 三瓶舞紀子(2018).ハイリスク妊産婦支援が楽になる動機付け面接活用の可能性.保健師ジャーナル,74(8),407-711.
- 総務省.(2020).令和元年通信利用動向調査の結果.
https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/statistics/data/200529_1.pdf
- 総務省統計局.(2017).平成28年社会生活基本調査—生活時間に関する結果—結果の概要.
<https://www.stat.go.jp/data/shakai/2016/pdf/gaiyou2.pdf>
- 総務省統計局.(2020).人口推計(2019年(令和元年)10月1日現在).
<https://www.stat.go.jp/data/jinsui/2019np/pdf/gaiyou.pdf>
- 島井哲志,小林正弥.(2020).ポジティブ感情の働き.保健師ジャーナル,76(7),594-600.
- Stacey D, Légaré F, Lewis K, Barry MJ, Bennett CL, Eden KB, ... Trevena L. (2017). Decision aids for people facing health treatment or screening decisions. *Cochrane Database of Systematic Reviews*, 4(4)
- 田村須賀子,高倉恭子,山崎洋子.(2016).発達障害の可能性を危惧した「気になる子ども」と養育者に対する家庭訪問援助の特質.日本地域看護学会誌,19(2),31-39.
- Thompson, J. E., & Thompson, H. O. (1985/2004).香川大学医学部看護学科(訳).看護倫理のための意思決定10のステップ.日本看護協会出版会.
- 辻恵子.(2007).意思決定プロセスの共有—概念分析.日本助産学会誌,21(2),12-22.
- Tsukada, H., Saeki, K., & Kido, T. (2006). Uncertainty in beginners of public health nurse who work for local governments when providing mother-and-child health service. *Journal of the tsuruma Health Sciences Society Kanazawa University*, 2, 103-112.
- 都筑千景.(2004).援助の必要性を見極める:乳幼児健診で熟練保健師が用いた看護技術.日本地域看護学会誌,24(2),3-12.
- 吉田弘道.(2012).育児不安研究の現状と課題.専修人間科学論集心理学篇.2(1),pp.1-8.
- 鷲山拓男.(2020).子ども虐待予防:「取り締まり」か「援助」か.保健師ジャーナル,76(5),352-356.
- Zerwekh, J. V.(1999/2013)萱間真美,玉置夕起子(訳).家族の自助能力を支える基礎作りとしての訪問ケア:家族を見つける、信頼関係を構築する、そして強さを育む.看護研究,32(1),15-24.